

平成 20 年 9 月 15 日

お取引先各位

最新情報

HOT！な情報報告

H2B ロケット打ち上げ成功！！

9 月 12 日発売の「読売新聞」に*ガイナ*の記事が掲載されました。

9/12（土）読売新聞 経済面10面（東京）に新型国産ロケット H2B の打ち上げ成功の記事が掲載され、
その中で「*ガイナ*」が紹介されました。

「*ガイナ*」は宇宙技術を生活の場に応用した断熱塗料で、その需要が大幅に増えているという内容になっております。

ご注意！！紙面の著作権は新聞社に帰属しておりますので、紙面の取扱いにはご注意ください。

（ホームページや広告等への転載・転用は絶対におやめ下さい。）

株式会社日進産業

打ち上げ価格競争に光

H2B成功

海外顧客の開拓に弾み

欧米に後れを取っていた日本の宇宙産業が巻き返しに動いている。新型国産ロケット「H2B」の打ち上げ成功をきっかけに三菱重工は衛星の商用打ち上げビジネスを加速させ、衛星メーカーも海外顧客の開拓に乗り出した。

(岩崎拓)

2007年度の日本の宇宙産業の売上高は2264億円とピークだった1998年度の4割減に落ち込んだ。09年度も2500億円程度にとどまる見通しだ。国の研究開発予算が削減され、衛星などの受注を海外メーカーに奪われているためだ。

三菱重工は07年にH2A打ち上げ事業が国から移管されて以降、政府以外からも衛星の打ち上げを請け負うビジネスを展開している。しかし、商用打ち上げの受注は1月に獲得した韓

国の観測衛星「基」と「まぐさ」の商用打ち上げ市場は年間20〜25基の需要があるが、欧州のアリアンスペイス、ロシアのクルニチェフ、ウクライナなどのシーロンチの3社に押さえられている。打ち上げの精度では引けを取らないものの、問題は料金。アリアンなどが最低70億円なのにに対しH2Aは85億円と割高だ。

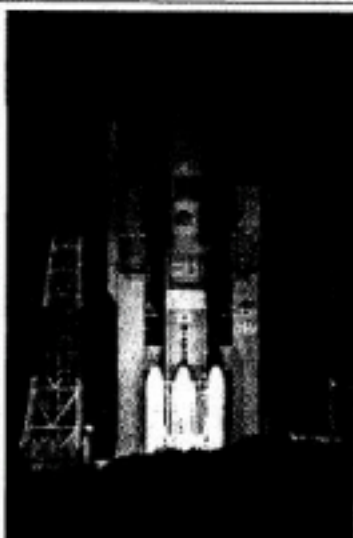
こうした中で業界関係者が注目するのがH2Bの打ち上げ成功だ。H2Bの運搬能力はH2AとH2Aより4割ほど大きい。複数の衛星を同時に打ち上げやすく、日本の課題だった料金引き下げにつながるなどの期待が膨らむ。今回のH2Bによる無人輸送機「基」の打ち上げ費用は147億円、2〜3基の衛星を同時に打ち上げれば70億円を下回る価格が可能になる。

一方、衛星製造の分野でも反転攻勢が自立つ。通信・放送衛星など60基組の製造実績を持つNBCは8月、人工衛星用エンジンの開発・販売で米衛星大手エアロジェットと提携協議を開始した。宇宙航空研究開発機構と共同開発した高速噴射エンジンを民間に転用、世界各国に販売する。

三菱電機は08年にシンガポールと台湾の通信会社から通信衛星を約130億円受注した。海外の商用衛星を単独で受注するのは日本企業で初めてだ。

新日鉄化学は人工衛星の外壁を覆う樹脂製耐熱シートの耐久性を高めた。日本の実験機「さほう」で試験

中で、同分野で先行する米デュポンを迫撃する。宇宙技術を生活の場に応用するビジネスも進んでいる。断熱塗料メーカーの日進産業(東京都)はロケットの断熱技術を応用した建築塗料を06年に商品化。09年は前年比5割増のペースで販売が伸びている。



打ち上げを待つH2Bロケット号機(10日夜、鹿児島県種子島市で)

宇宙産業や宇宙技術を進める主な動き

企業名	分野	状況
三菱重工	ロケット製造・打ち上げ	H2Aに次ぎ、H2Bの打ち上げに成功
	同上	GXロケットを国と共同開発中
IHI	燃料ポンプ・姿勢制御装置	H2A、H2Bなどに供給
	衛星収納容器	H2A、H2Bなどに供給
川崎重工	人工衛星用エンジン	米衛星大手と開発・販売で提携へ
	人工衛星	商用通信衛星で海外から初受注
NEC	ロケットの断熱技術	断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
	ロケット打ち上げ時に飛行士にかかる衝撃を分散する技術を模索	
三菱電機	人工衛星	商用通信衛星で海外から初受注
	建築用途	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
日産産業	断熱塗料	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
	塗料	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
デンビュール	断熱塗料	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
	塗料	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
ブリヂストン	タイヤ	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される
	タイヤ	ロケットの断熱技術を開発し、宇宙産業に活用される